道産木材

地林地消

Vol.3

北海道の木を活かした**建物と空間**

宿泊・観光・教育文化
（特徴的な使い方）編

道産木材を使用する際の「設計プラン」

Vol.3

地林地消

chi zai chi sho

刊　行　の　こ　と　ば

平成 25 年度から取り組んできた「道産木材」の発行は今回で 3 冊目、北海道の木を活かした建物と空間について、Vol.1 では店舗・事務所をメインに、Vol.2 では店舗・施設・レストランをメインに、そして今回の Vol.3 では宿泊・観光・教育文化施設（特徴的な使い方）をメインにご紹介します。

北海道には毎年多くの観光客が訪れますが、観光客にとって北海道の雄大な景観は大きな魅力の1つでしょう。その景観を作り出しているのは、針葉樹のエゾマツ・トドマツ・カラマツや広葉樹のナラ・カバ・カエデなど北海道特有の樹種からなる森林です。しかし、恐らくほとんどの方は特別な意識を持たずにこの森林を見ているのではないでしょうか？ 北海道を紹介するにあたって「実は、この建物や家具は北海道の木材でできています」とか「全国に広がっている『木育』という考えは実は北海道で生まれました」というように、北海道の木をキーワードにした話題提供やおもてなしをしてみてはいかがでしょう？

北海道の土地面積の 7 割は森林で、そのうち 3 割が木材として利用するために植えられてきた人工林です。人工林の大部分は戦後一斉に植えられて、その多くが立派に太く成長し蓄積量を増やしており、今、本格的な利用期を迎えています。森林は、清らかな水を蓄え、野生生物の生息の場となるほか、生育過程で温室効果ガス（CO_2）を吸収・貯蓄することで地球温暖化防止に貢献するなど、様々な恩恵を私たちに与えてくれます。

そして、その森林から生産される木材は、「植えて・育てて、伐って・使って、また植える」という林業・木材産業の営みの中で、永続的に生産し続けることのできる北海道の貴重な資源であるとともに、健康的で温もりある快適な生活空間を創出することができます。

木材の利用用途は様々ですが、柱や梁、壁、床といった建築材としての利用が最も効果的に森林・林業の再生、地域経済の活性化へ繋がります。また、地域材を使った心地よい建物が増えることで、北海道を訪れる方が増え、北海道がより元気になることを期待してこの冊子をお届けします。

CONTENTS

■森の旅亭　びえい……002-005
■エコハウス　美桑……006-007
■ Guesthouse & Bar SappoLodge …… 008-009
■ガーデンヴィラ フラテッロ・ディ・ミクニ …… 010
■ニセコ地域 コンドミニアム …… 011

■函館駅前イルミネーション 2015-2016 …… 012-013

■明郷 伊藤レストラン ATTOKO …… 014-015
■函館アリーナ…… 016-017
■新函館北斗駅 …… 018-019
■木古内駅・道の駅　きこない ……020-021
■レストラン プラティーヴォ …… 022
■十勝トテッポ工房 …… 023
■ニセコビレッジ ショッピング&ダイニングエリア……024-025
■北海道立オホーツク流氷公園 あおぞら交流館 ……026-027
■道の駅 あかいがわ …… 028
■ひがし大雪自然館…… 029

■「くしろ木づなプロジェクト」……030-031
■「上川トドマツプロジェクト」…… 032
■「CLT 仮設店舗」 …… 033

■松前中学校……034-037
■陸別小学校 …… 038
■七飯ほんちょう保育園…… 039
■札幌学院大学 Collaboration Center …… 040
■ときわの家…… 041
■石山神社…… 042
■下川町のトドマツオフィス …… 043

■「Paper-Wood」「ECO シラパネル」…… 044
■「学習机 天板交換プロジェクト」 …… 045
■「KEM の木育遊具」…… 046
■「工房　十勝の木のうつわ」…… 047

■委員のことば…… 048- 表 3

宿泊施設　観光・商業施設　教育施設　コラム

※表紙の写真

〔上〕函館アリーナ
〔中〕森の旅亭　びえい
〔下〕陸別小学校

■ 平成 28 年 2 月 発行

発行：北海道林業・木材産業対策協議会
監修：店舗・事務所等における地域材利用検討委員会
編集：株式会社 碧風舎
印刷：総合商研 株式会社

「離れ」５室の『外回廊』全景
源泉掛け流しの温泉水を溜める水盤と、高低差を利用した段状に連なる水路と滝からなる「外回廊」。トドマツの構造フレームとカラマツの羽目板がライトアップされ、来館者に非日常の癒しをあたえます

森の旅亭 びえい

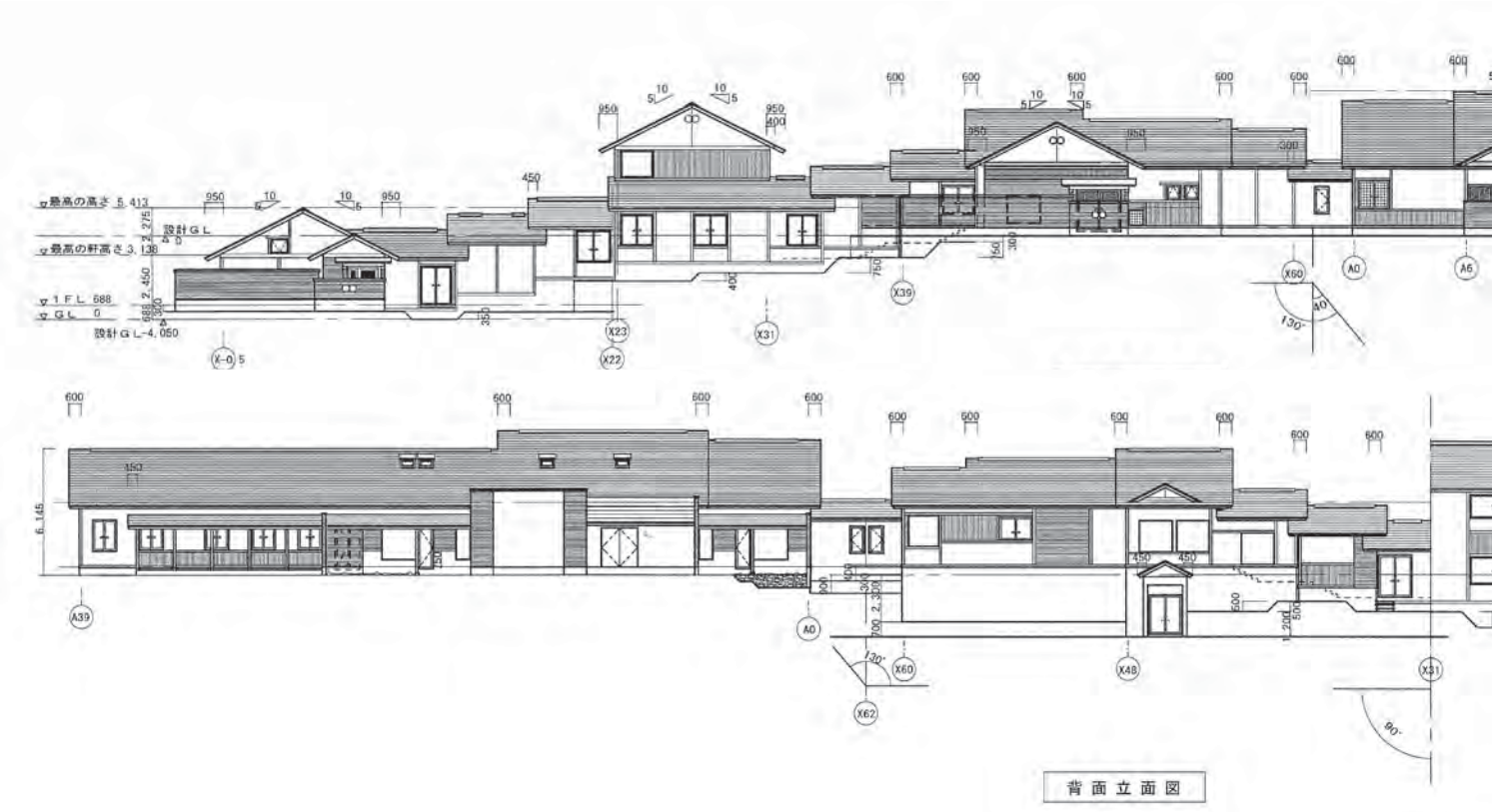
【建物概要】
森の旅亭 びえい
・施設用途：温泉旅館（17 室、内 12 室客室露天風呂付）
　　玄関棟：フロント、サロン、床の間、喫茶
・本　　館：大浴場、湯上り処、食事処、厨房、エステ
・客　　室：離れ 5 室・人口水路・滝・水盤、２階建棟 10 室、平屋棟２室
・所 在 地：美瑛町字白金 10522-1、11675-1
・構　　造：木造（枠組壁工法、一部軸組在来工法）
・規　　模：地下 1 階、地上 2 階
・敷地面積：5,114.39m^2
・建築面積：1,463.21m^2
・延べ面積：1,562.68m^2
・主な仕上：外部　塗り壁（エスケー化研）一部板張り　板金屋根
　　内部　壁　クロスに付柱・長押・竿
　　床　　シラカバ無垢フローリング・縁甲板・畳
・源泉泉質：ナトリウム・マグネシウム・カルシウム―硫酸塩・塩化物泉（低張性中性高温泉）
・温泉方式：客室５室　源泉掛流し、７室加水式掛流し、大浴場　源泉掛流し
・設　　備：排煙、火報、放送　他
・施　　主：（株）北海道産地直送センター　富島誠一　電話：011-891-1122
・設 計 者：「MOOS」細川悟志　　ミサワホーム北海道（株）デザイン室
・施　　工：ミサワホーム北海道（株）

【木材使用箇所と樹種・使用量】
外　　壁：付柱・幕板・破風　トドマツ 40m^3
外　　壁：羽目板　カラマツ 216m^2
外 回 廊：構造フレーム表し 及び軒天材全てトドマツ 250m^2
サ イ ン：シラカバ（敷地内調達）、タモ、ミズナラ他
内 部 床：シラカバ無垢フローリング 470m^2
食 事 処：テーブル　シラカバ（敷地内調達）
洗 面 所：カウンター天板　アカエゾマツ
大 浴 場：カウンター天板　アカエゾマツ
客室全室：家具全て　アカエゾマツ、ミズナラ、シラカバ

「旅館と周囲の大自然」
大雪山系の手つかずの自然林を建物に取り入れるべく配置された、大屋根の旅館全景。周囲の緑が、幾何学的な建物を包んでいます

「離れ客室 103「楓の間」玄関アプローチ」
カラマツの羽目板とトドマツの柱、梁材に、塗り壁の壁面が現代数寄屋を演出します

「本館 大浴場前の回廊」
シラカバのフローリングは留辺蘂産。22 メートルの間接照明と合わせて回廊の奥行き感を強調しています



「「離れ」の人口水路、滝、水盤」
各客室の玄関下が水路になっていて、温泉の源泉が滝となって流れています。その周囲にトドマツやカラマツの柱や羽目板が取囲み、冬には、源泉の湯煙が立ち昇り、幻想的な雰囲気を醸し出します

「客室内も道産のオリジナル家具」
「澤工房」とのコラボによる道産特注家具アカエゾマツの座卓と座椅子。他にも食事処のテーブルや洗面台、フロント展望ホールなどほとんどの家具は道産材で造られています。

大雪山系のふもと美瑛町の白金温泉郷。旭川空港から50 分という立地に加え、東向きには十勝岳連峰を望む緑豊かな丘陵地に森の旅亭びえいはあります。

シラカバやエゾマツ・トドマツといった北海道の自然林を背景に、隣接する国有地に対し３列の軸線を取り客室棟を配置しています。この軸線を基準に、どの部屋からも自然林が見通せるよう、玄関棟、大浴場・食事処のある本館、客室３棟の、計５つの棟が階段状の渡り廊下「回廊」でつながっています。

切り妻屋根の深い軒を持つ外観は、一部を除き低層の平屋とし、敷地の高低差に合わせて段状の屋根が連なり、周囲の緑に埋もれるよう配置することで、和風数寄屋の雰囲気を強調させました。特に「離れ」５室は、掛け流した温泉水をアプローチ横の「水盤」に溜め、建物に沿って造られた「水路」から排水されるようにしました。これによって、段差を利用した小さな滝が奏でる水音が静かな山間に響き、「和」の落着きと、非日常の「癒し」を与えています。

わずか17 室という旅館ならではの温かみを出すため建物の構造は「木造」とし、目につく内外観の意匠は寒冷地の木構造にふさわしい大壁に「数寄屋」をイメージしました。

木材を吟味し高額な銘木を多用する和風建築は建設費がかさみます。手軽に手に入る建材を工夫して作ることが元来の「数寄の心」と考え、利休の時代から続く「日本人の感性」を、北海道の白金に再現しようとしました。また、目に見える木質建材のほとんどを道産材とし、外壁のカラマツには独特の加工を加え、「回廊」の床材は大雪山系で間伐されたシラカバで、テーブルやベンチなどにも生かし、「地産地消」にこだわりました。

photo by KEN 五島

photo by KEN 五島

下川産 FSC 認証カラマツ材をふんだんに使った内観

photo by KEN 五島

【使用木材と施工状況】

〈構造体〉 下川産 FSC 認証カラマツ集成材
〈断熱材〉 下川産トドマツウッドファイバー 300mm 厚（株式会社木の繊維）
〈外　部〉 外壁：木酢液浸漬燻煙処理カラマツ材 18mm 厚
押縁：カラマツ材 45 × 45mm ピッチ 333mm ウッドロングエコ塗装
カラマツ材 30 × 18mm ピッチ 333mm 木酢液浸漬燻煙処理材
〈内　部〉 床 ：1階ーカラマツ材 30mm 厚
2階ーカラマツフローリング 15mm 厚
天井：子供室1ーカラマツ羽目板 9mm 厚 素地
浴室ーカラマツ羽目板 12mm 厚 素地
階段：カラマツ集成材 30mm 厚
建具・造作家具：カラマツ３層パネル（緑川木材株式会社）
障子：下川産タモ集成材+下川産ヤナギペーパー貼り
取り扱い：カラマツ集成材・カラマツ材は下川町森林組合

《建物概要》
美　　桑
・住　　所：下川町班渓 2326-1
・構　　造：木造２階建（一部Ｊ開口フレーム使用）
・延床面積：249.30 m^2（カーポート含む）
・設 計 者：アトリエ momo　櫻井百子・川崎芳弘（共同設計）
・構造設計：Ｊ建築システム株式会社
・施 工 者：市村・丸昭高橋経常建設共同企業体
・連絡先（及び対応者）：五味温泉
・連絡先（宿泊体験問い合わせ先）01655-4-3311

エコハウス　美　桑

photo by KEN 五島

北海道の北部に位置する下川町は人口 3,500 人ほどで、町の面積の約 90％が森林であることから、森林・林業を基盤として発展してきました。町では、循環型森林経営の確立を目指すとともに、北海道で第一号の FSC 森林認証の取得、森林バイオマスの総合的な利活用などに取り組んで、2008 年には国の「環境モデル都市」、2012 年には「環境未来都市」の認定を受けました。これまでの取り組みを持続・発展させて、地域の活性化に結びつけた取り組みと低炭素社会の構築を積極的に推進しており、日本はもとより世界から注目されている町の一つです。

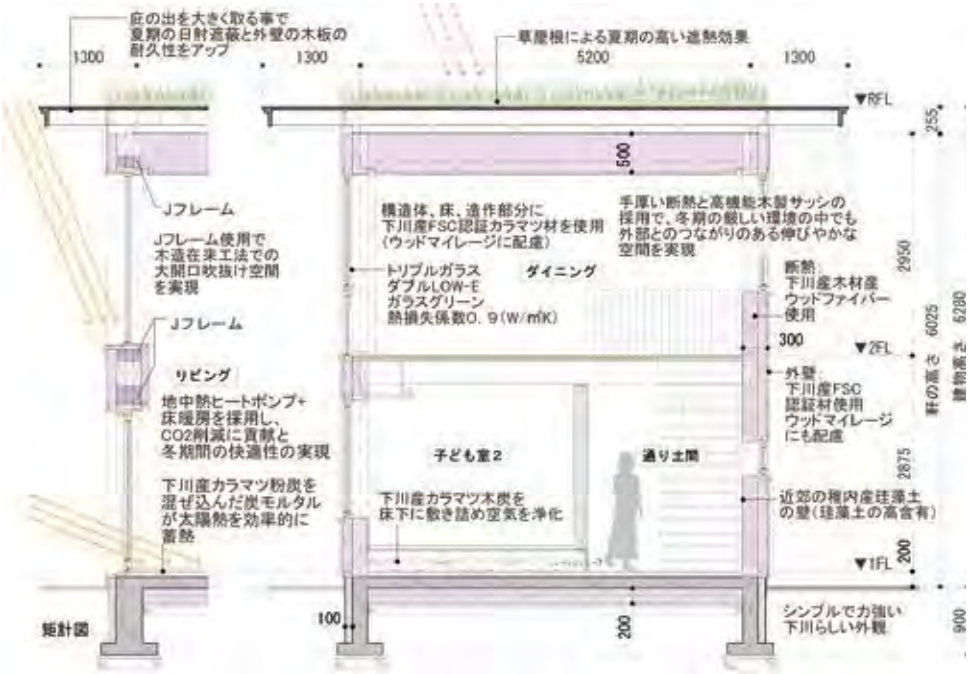
そのような背景のもと、2009 年、環境省の「21 世紀環境共生型住宅のモデル整備による建設促進事業」において、応募の中で選ばれた全国 20 の自治体が、環境省の補助金を受け、それぞれの地域の気候風土や特色を生かしたエコハウスの実現と普及に取り組むことになりました。

最北に位置する「エコハウス 美桑」は使用する木材のほぼすべてを下川の森林から伐採された、FSC 認証カラマツ材を使用しています。それが、ウッドマイレージを劇的に減少させ、CO_2 削減と林業の振興に貢献し、積極的なバイオマス利用で CO_2 の排出も最小限になりました。ライフサイクル CO_2 を含めてトータルでゼロカーボンをめざしています。それらは、下川らしい環境共生型のモデルハウスの建設を進めるにあたり、大切なポイントとなりました。建物としては初の FSC 部分プロジェクト認証を獲得しています。

また、水平力の一部を外部のバットレスで負担しながら、梁間 5.2m、スパン 4m の架構を在来軸組で構成し、105mm × 200mm の柱を採用するなどの構造的な工夫で 200mm の充填断熱を可能にし、外張りと合わせてウッドファイバーで手厚く断熱しています。

□設計者の声：

大きく張り出した庇と共に、地域材をふんだんに使用した北海道らしいシンプルで力強い外観を意識しながら、周辺環境から逸脱せず、奥ゆかしく佇むような配置計画を心がけました。年間の温度差が 60℃にもなる厳しい環境に対応できる徹底的な断熱気密を施しながら、どこまで開放的にできるか挑戦しました。地元の職人さんたちの高い技術で、高性能でありながら開放的な気持ちの良い空間になりました。下川町がかねてから取り組んできた循環型森林経営の一端を担えたことで、さらなる地元の木材の普及につながること、年を重ねるごとに周辺の緑に馴染み、地元の方々に愛着を持って長く使っていただくことで、環境にさらなる貢献ができることを心より願っています。　（アトリエ momo 櫻井）



Guesthouse & Bar SappoLodge

アカエゾマツ、ミズナラ、イタヤカエデ、ハルニレ、シラカバ、トドマツ、カラマツ…ススキノの近くに位置しながら、道産材をふんだんに使った「都会の山小屋」風ロッジ、SappoLodge（サッポロッジ）です。1階はバースペース、2階がゲストハウス（宿泊施設）になっています。

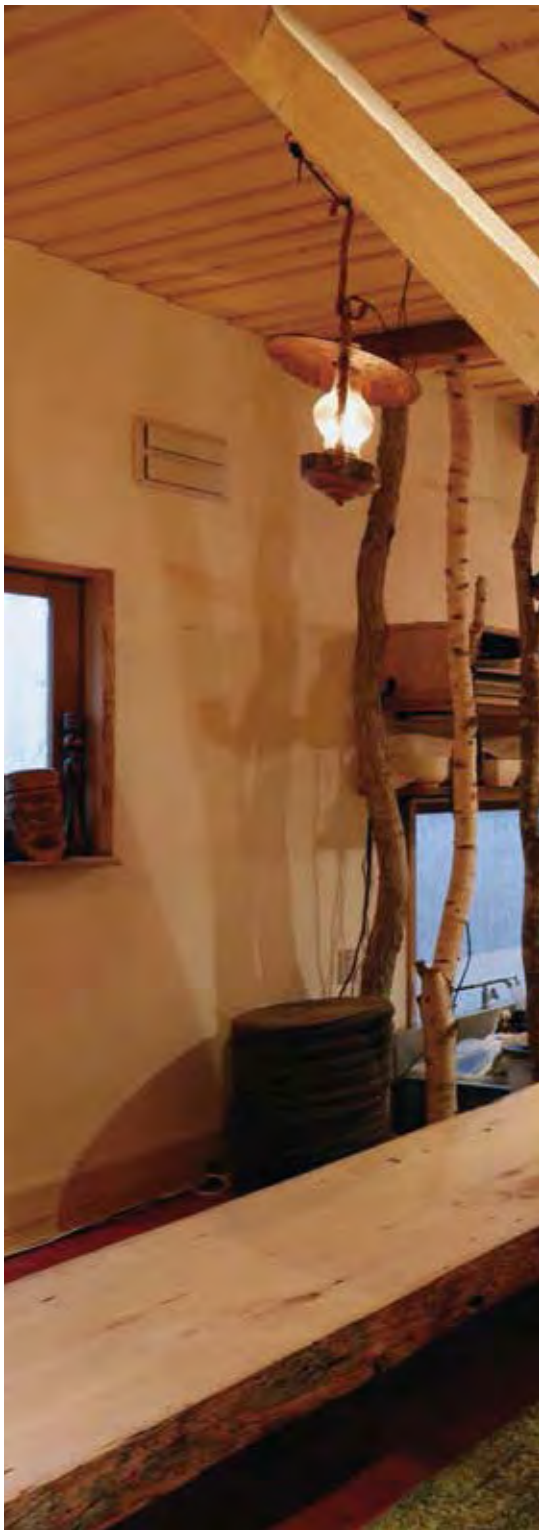
もともと山岳ガイドとして世界 40 カ国を旅してきましたが、ほどよい人口と豊かな自然に恵まれた札幌の魅力に改めて気が付き、札幌・北海道の魅力を発信するための場所、北海道中の自然へアクセスする基点となる場所を作るべく SappoLodge を作りました。

40 年前の建物をほぼ全て解体し、内装をリノベーション。こだわったのは道産材を使うことです。世界中の旅人がこの北海道を目指して来るので、どうせ作るならオール北海道でなくては意味が無いと考え、自分で森に入ってチェーンソーで木を伐るところからやりました。リノベーションに要した期間は約半年。伐採からトラックによる運搬、加工、設置まで設計士や大工、木工職人、仲間たちと協力し、プロの意見をもらいながら作り上げた完全な手作りです。例えば、階段に使われているシラカバは、喜茂別町の山林に許可をもらい、自ら伐採して皮を剥がしたもの。バーカウンターには、樹齢 350 年のアカエゾマツの巨木を大胆に半割にして、チェーンソーで加工し、脚を組んで丸太ごと据え付けました。恐らくススキノで一番重たいカウンターでしょう。天井にはカラマツを太さによって3段階に製材し、ランダムに貼り合わせるようなデザインにし、壁には道南スギを貼っています。

化学塗料なども使っていないため、木の中には昆虫の幼虫が生きていて、薪ストーブの暖かさで時々出てきます。朝出勤したら、大きなカミキリムシが歩いていることも……まさに都会の山小屋です。木に割れが出たり、シミが付くこともありますが、全てを自然の一部ととらえて楽しんでいます。時間とともに、天然木の色や風合いの変化も楽しみです。そして何より、来てくれる人達が木に囲まれて“また来たい”と思ってもらえるような空間であり続けたい。一緒に北海道を大いに楽しみながら生活したいと思います。

（オーナー 奈良）

カミキリが…都会の山小屋です



都会にいながら「木の香り」を楽しめるバー兼ラウンジ空間

《建物概要》

SappoLodge（サッポロッジ）

- 住　所：札幌市中央区南5条東1丁目1番地4
- 連絡先：011-211-4314
- 用　途：飲食業、簡易宿泊施設、ガイドオフィス
- 種　類：一棟
- 建物構造：木造
- 床面積：215.68m^2
- 設　計：HOLOMIN(札幌 / 幌見峠) http://www.holomin.com/
- 施　工：HOLOMIN、craft x craft http://d.hatena.ne.jp/craftcraft/
  仲間たち約 200 名

オーナー自ら大雪山の麓から 4 t トラックを運転して運んだアカエゾマツを使ったバーカウンター

運搬も施工も自分たちの手で。作業に携わった仲間は全体でおよそ 200 名にも上ります

国内外の旅人、札幌の人、ご近所さんが集まるバーは、国境や人種を超えた交流の場となっています

ベッドも梯子も道産材を使った手作り。梯子を上りやすいようにと段差の高さにまでこだわりました

【使用木材と施工状況】

バーカウンター：アカエゾマツ・樹齢 350 年丸太1本 5m・大雪山麓・チェーンソー加工
バーテーブル：カウンターの上半分を 10cm 厚と 5cm 厚にスライスした板を加工し、表面の研磨や脚付けも全て手作業で製作。
壁：道南スギ・(株)ハルキ・下見板張り
天井：喜茂別産カラマツ・荒材・無塗装
柱：トドマツ・丸ノミ仕上げ・無塗装
床：トドマツ・荒材キルンドライ・オイルスティン
窓枠、ドア枠：ミズナラ・耳付き仕上げ・オイルフィニッシュ
ベッド枠、棚：オンコ
自然木：ミズナラ、イタヤカエデ、ハルニレ、シラカバ

ガーデンヴィラ フラテッロ・ディ・ミクニ

平成 26 年にオープンした「大雪森のガーデン」（「道産木材 Vol.2 」p.28 ～ 31 に掲載）に隣接されたこの宿泊施設は、レストランのためのものです。巨匠・三國清三氏がオーナーシェフを務めるガーデンレストラン「フラテッロ・ディ・ミクニ」で提供されるのは、北海道の食材を主に使ったイタリアン。それならば、宿泊施設にも道産材を使いたいと考えました。目の肥えた大人に宿泊していただいても、納得頂けるクォリティーを求めながら道産材を用いて作っています。柱の一部にナラの古材を用いることで、この地域一帯がかつては豊富な森林資源に恵まれ、林業で栄えた歴史とつながるよう配慮しています。壁面には道産針葉樹合板を採用しましたが、素地のままでは表情が荒く求めている雰囲気とならないため、白色を塗装し拭取ることで木の持つ温かみと洗練された雰囲気を併せ持った雰囲気を作ることが出来ました。

建築だけでなく提供される料理を含め道産にこだわりながら、質の高い宿泊施設を作ることが出来たと思っています。今後はより地場にこだわり上川産の木材で施設を作りたいと思います。

【使用木材と施工状況】

内壁・天井：針葉樹合板（トドマツ）19mm 厚
丸玉産業（株）215m²
外壁・軒天：羽目板（トドマツ）15mm 厚 39m²
柱　　：ナラ（古材）直径 200mm 程度 3 本
※使用量は 1 棟当たりの数字です。

《建物概要》
ガーデンヴィラ　フラテッロ・ディ・ミクニ
・住　所：上川町字菊水
・連絡先：01658-2-3921
・H　P：
http://www.daisetsu-asahigaoka.jp/r-v.html
・設計者：（株）アイエイ研究所　佐々木 司

ニセコ地域
コンドミニアム

ニセコ地域の最大の特徴は、「世界有数のパウダースノー」と言わしめるバックカントリーに代表される冬の魅力にあります。日本海側から吹く風により、適度に湿り気のある雪が浮遊感のあるパウダースノーの恵みを生み出し、このパウダースノーを求め、国内はもとより世界各国から人が来るようになり、当地域における外国人の宿泊延数は、平成 24 年度で 31 万 6 千人泊で北海道内では札幌市（外国人宿泊延数 85 万 4 千人泊）に次ぐ規模となっています。

外国人観光客の増加とともに海外からの投資が盛んに行われていることも当地域の特徴のひとつで、特に世界ブランドのホテルやコンドミニアムについては、海外からの投資により建設・取得された物件が多くあります。これらの物件は、欧米基準のサイズやデザインを持ちつつも和の様式を取り込んだ物が多く、海外にも類を見ないニセコならではのリゾート様式を生み出しつつあります。

グリーンシーズンは、ホワイトシーズンほどの集客には至っていないものの、ラフティングやフィッシング、サイクリングといったアウトドアアクティビティやゴルフ、テニスなど各種コンテンツが豊富であり、修学旅行生の受入や、国際的なスポーツイベントの開催も増加しつつあります。

また、多種多様な温泉施設や恵まれた自然を活かした遊び、景観を背景に、コンドミニアムを利用した長期滞在も増加傾向にあり、滞在型のリゾートとしての性格を強めつつあります。このコンドミニアム建設について、当初は輸入された木材を利用することが多かったのですが、資源の枯渇や価格高騰、環境負荷低減等の要因から、地域材へと代替する動きが出てきました。以前は多く使われていたウエスタンレッドシダーの外装材ですが、材質や色合い、性能が似ていることから近年スギ（道南スギ）が使われるようになりました。

今後発展が期待できる当地域において、更に地域材が広がってくると考えられます。

SHIKA ／倶知安町　　**【使用木材と施工状況】**
外装材：道南スギ

《連絡先（及び対応者）》
SHIKA ／㈱匠和建工
札幌市西区八軒 3 条東 4 丁目 1-1
011-887-7887
http://www.ej-showa.com/

オーチャードハウス／倶知安町

【使用木材と施工状況】
外装材：道南スギ
構造材：道産トドマツ集成材

《連絡先（及び対応者）》
オーチャードハウス／丸太ん坊
倶知安町字比羅夫 475-62
0136-23-4929
http://www9.plala.or.jp/marutan/

イルミネーションデザインは「アースワーク」だと考えます。つまり、その場を訪れなければ体験することのできない、「その土地ならではの演出」でなければなりません。私たちは今計画のデザインモチーフを、「函館にしかない」ものに徹底的にこだわり、「豊かな海」「函館山」「夏のいさり火」「道南スギ」の4つを選びました。これら4つのデザインモチーフから全長 80 メートル、最高高さ 6.3 メートルの壮大な「光のパサージュ」を、北海道新幹線からの来函者を歓迎する函館駅前空間に創り上げる計画です。

道南スギによって構成される、函館山の愛称「臥牛」の稜線をモチーフとした美しい3次曲面をもつ構造フレームは、夜間だけではなく昼間にも雄大なランドスケープとして、またスギの温もりと共に冬季間の観光客を暖かく迎えます。

複数年繰り返される計画のため、接合部を全て特殊なボルト接合として計画し、木材の繰り返し使用に耐えうるディティールとしています。

道産材の有効活用において、「構造材」としての普及は何よりも重要な課題です。今計画が、道産材の魅力をより多くの人々に伝え、これまでの視点とは異なる新たな可能性や、多様な活用方法を模索する上での良い起点になることを願っています。

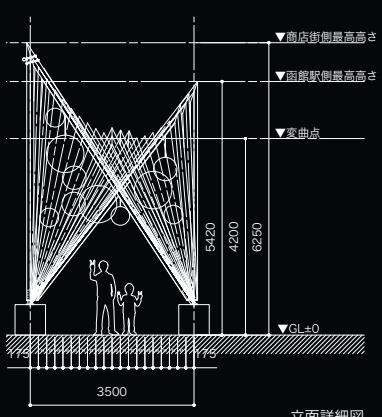
【使用木材と施工状況】

使用木材：道南スギ
使 用 量：10m³

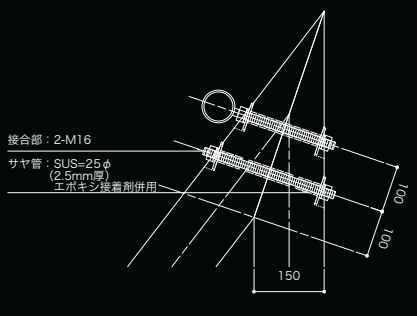
《作品概要》

・設計監理：髙田傑建築都市研究室
・構造計画：ARUP
・施　　工：株式会社 平野建業
　　都市電気 株式会社
　　有限会社 文字堂

プロポーザル提出時イメージパース。道南スギで構成された3次曲面フレームが全体を支える



立面詳細図



柱頭部詳細図

函館駅前イルミネーション
2015-2016

レストラン ATTOKO は「生産者と消費者をつなぐ」、「新たな農村文化の育成と発信」、「子供達へ家畜と触れ合う実体験を提供」、「美しい風景を育み根室の良さを伝える」という 4 つのコンセプトのもと作られました。

【使用木材と施工状況】

トドマツ構造用集成材：14.1m³
トドマツ構造用製材：14.5m³
トドマツ造作材（羽目板・野地板現し）：6.27m³
カバ材フローリング：0.96m³
古材（解体した牛舎の構造材＝道産材）：5.90m³

《建物概要》
明郷 伊藤レストラン　ATTOKO
・住　所：根室市明郷 101 番地
・連絡先：0153-26-2288
　　http://www.nemuro-footpath.com/gyuu/
・全体計画、基本設計：
　　高野ランドスケーププランニング株式会社
・建築基本設計：象設計集団　樋口裕康＋松延剛
・施工図作成、施工：（株）日建ハウジング
・ファーム アニマルズ パークイラストレーション：
　　Atelier Caballo 馬場美樹

明郷 伊藤レストラン ATTOKO

緩やかな起伏がどこまでも続くおおらかな風景にある牧場直営レストランATTOKO。伊藤家が昭和24年からこの根室の地で64年もの間続けてきた牧場が、都市と農村の交流拠点としてこの度新たに生まれ変わりました。

今回のレストラン建設計画の大切な要素の一つには、かつて使われていた牛舎の材を使うことがありました。長い間厳しい環境から牛を守ってきた牛舎。その骨組みに使われていた道産材を、新しい空間に新しい形として活かすこと、記憶を継承すること。それは施主の強い思いでもありました。計画にあたって旧牛舎の実測調査が行なわれ、使用されていた木材の特性を生かすように新しい空間、工法をデザインしています。使用されたのは、この地に根付いていたカバ、エゾマツ、トドマツです。風雪に耐えてきたそれらの古材には、新材にはない大きな存在感があります。また、それらの材に新しいかたちを与えることによって、場所の記憶を持つ材と新しい空間とが、風景の中で同調し、互いに引き立てあいます。壁面の一部には、かつての牛舎の面影も残されています。

また、ランドスケープも今回の建設計画の大切な要素の一つです。レストランは敷地中央に位置し、大らかに周辺と関わるようにしています。レストランからは、牧場らしい広がり、それと一体になって放牧されている動物達の姿を楽しむことができます。レストランへ向うアプローチ、レストラン周辺は、食にちなんだハーブや果樹、ベジタブルガーデン等によって修景されています。家畜達とのふれあい体験の拠点となっているファーム・アニマルズ・パークは小規模分散型で林縁部に配置することで森と草地の飼育環境を用意しています。

[**下左写真**] かつての牛舎の木材で、その骨組みをあらわした壁面。場所の記憶。生活の記憶

[**下中写真**] 新しいかたちに組まれた牛舎の古材がつくる、この建物の背骨。内部空間を通り抜けていく柱の森。ショップからレストラン。そのまま広い屋外デッキへとつながります

[**下右写真**] 柱の森にそれぞれの空間が寄り添います。森に建つ小屋のようなデザートコーナー。その横の扉からガーデンにアプローチ、その先にはアニマルパーク

【使用木材と施工状況】

道南スギ：準不燃材　30mm × 185mm

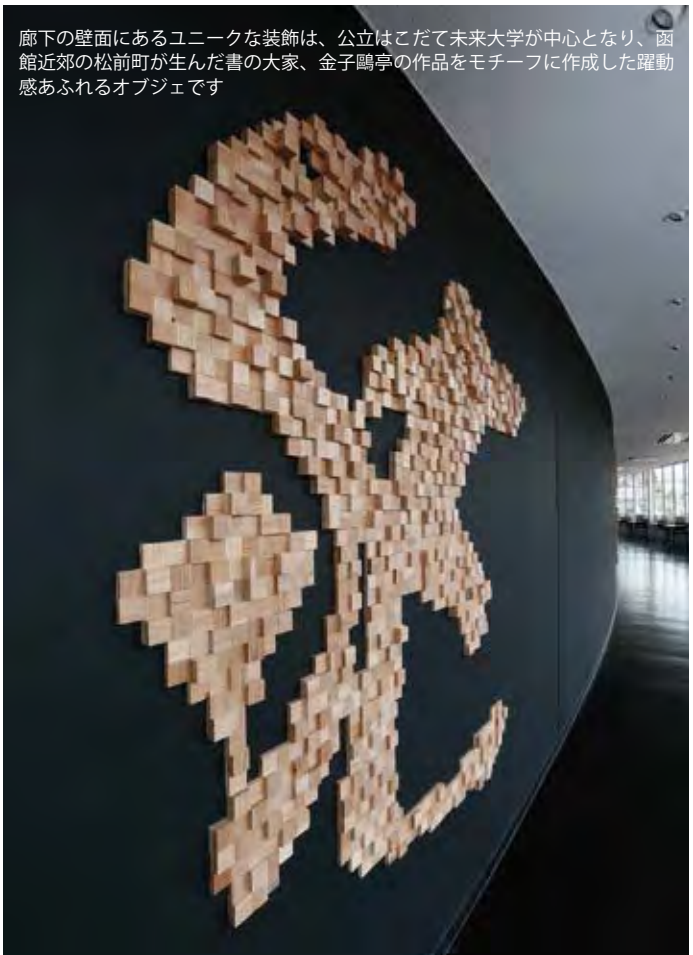
メインアリーナの壁面に設置された、ひと際目立つ道南スギは、反響・吸音の役割を持つだけでなく、スギ特有の柔らかさにより衝突時の衝撃を低減する効果があります

函館アリーナ

函館アリーナは、北海道新幹線の開業年度である 2015 年 8 月に開館した多目的施設です。函館市民会館に隣接した湯の川エリアに立地しており、各種スポーツ大会やコンサート、コンベンション（会議や催し物）を開催するための最新設備を揃えています。メインアリーナは最大収容 5,000 人と、南北海道では今まで不可能だった大規模イベントの開催を実現しました。市電「市民会館前」停留所の正面に位置しており、JR 函館駅からは市電利用で約 30 分、函館空港からはタクシーで約 10 分と、アクセスのよさが魅力です。開業にあたっては、函館出身で日本を代表するロックバンド「GLAY」がこけら落とし公演を開催しました。この施設の特徴は、多目的アリーナとして利用が可能となるよう整備したことです。例えばスポーツ大会の場合、バスケットボールコートをメインアリーナで3面、サブアリーナで1面、合計4面取れるため、効率的な大会運営が実現します。さらに、メインアリーナには、備品として用意されている仮設イスも活用すると 5,000 席を用意することが可能で、冷暖房を完備しているほか、床荷重５ｔを確保しており、各種コンベンションにも対応しています。また、同時に約 1,000 人が利用できる無線 LAN システムや、大型バス待機場、ユニバーサルデザインで整備されたトイレや誘導マットなどがあります。個人利用も可能で、各種スポーツや、トレーニングルーム、屋内ランニングコースは一般料金 400 円で使用可能です。

音響にも工夫が凝らされています。道南スギの仕上げ板の間に吸音材となるグラスウールがセットされており、反響と吸音のバランスをとっています。この道南スギは準不燃処理されており、防火性能を有しています。旧市民体育館同様、市民がスポーツや健康づくりに励むことができるのはもちろんのこと、プロスポーツ観戦や大規模ライブなどの各種コンベンションを行うことができるようになりました。

メインアリーナの観覧席は、カバ材を成形合板にした木製ベンチが設置されています



廊下の壁面にあるユニークな装飾は、公立はこだて未来大学が中心となり、函館近郊の松前町が生んだ書の大家、金子鷗亭の作品をモチーフに作成した躍動感あふれるオブジェです

《建物概要》

函館アリーナ

- **住　所：**函館市湯川町 1 丁目 32 番 2 号
- **連絡先：**0138-57-3141
- **設計 / 建築：**函館市教育委員会生涯学習部スポーツ振興課（電話 0138-21-3474）

新函館北斗駅

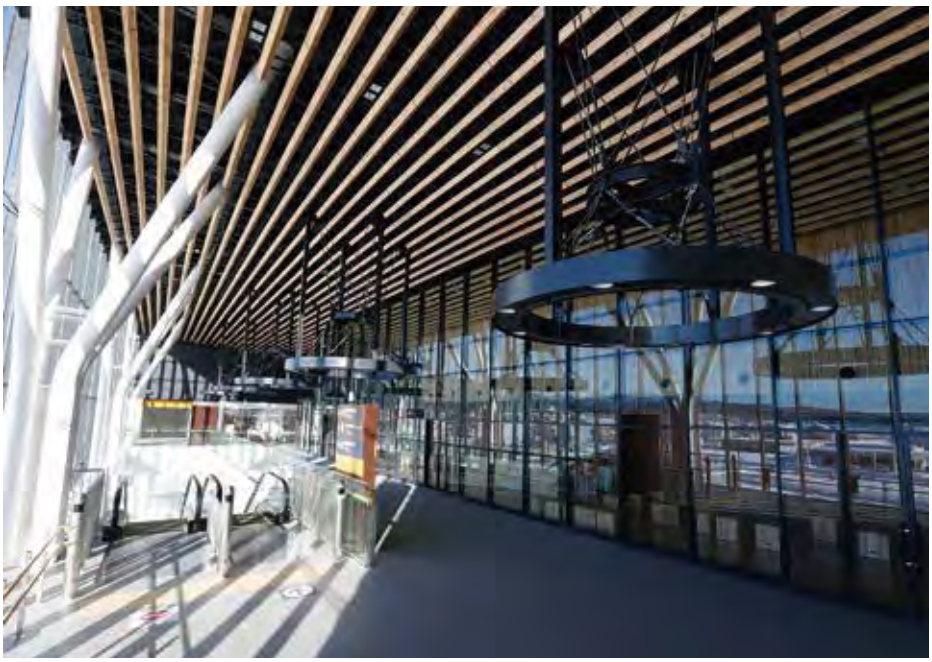
平成28年3月26日の北海道新幹線開業によって北海道の新たな玄関口となる木古内駅、新函館北斗駅

新函館北斗駅は、「自然と共に呼吸（いき）するモダンで温かみのある駅」をコンセプトに地域の自然を感じながらまちとの一体感を強調したデザインとしました。大開口（エントランス）を設け、窓を通して駅とまちとの積極的な繋がりを意識し、駅に居ながら北斗の四季を感じられます。

壁及び天井は、道南スギ材に燃えづらくする処理を施して不燃性能が付与されています。点在している箱（函）型ベンチも道南スギで作られています。軽くシンプルな形状のため、並べ方によって様々な表情が生まれます。ベンチの端にさりげなく焼印されているのは北斗市の市章です。

ダイナミックな空間ながらも、壁や天井、什器に道南スギをバランス良く効果的に使用することで、温かみを感じる空間となっています。

観光案内所。道南スギの壁は、北海道産のレンガ壁とも調和し、落ち着きのある空間を作り出しています



天井に吊された12cmの角材は、ひし形に見えるよう斜めに吊すことで、目隠し効果が増し、圧倒的な存在感を感じさせてくれます

【使用木材と施工状況】

天井ルーバー：道南スギ　63.87m³
集成材（表面に不燃性塗料）

壁　　面：道南スギ　5.83m³
準不燃パネル
（材料に薬剤を注入処理後に
パネル化）

観光センターカウンター等：道南スギ　フリー板

木 製 ベ ン チ：道南スギ 56 脚（1.5m³）
フリー板

駅構内に点在している木製ベンチは、軽くてシンプルな形状のため、並べ方によって様々な表情が生まれます。ベンチの端にさりげなく北斗市の市章が焼き印されています

木古内駅・道の駅きこない

木古内駅は、「波と森のプロムナード～北の交流発信地～」をコンセプトに過去、現在、未来へつながる町の歴史性を、打ち寄せる波のリズムや木々の合間に満ちる木漏れ日にのせてデザインしています。

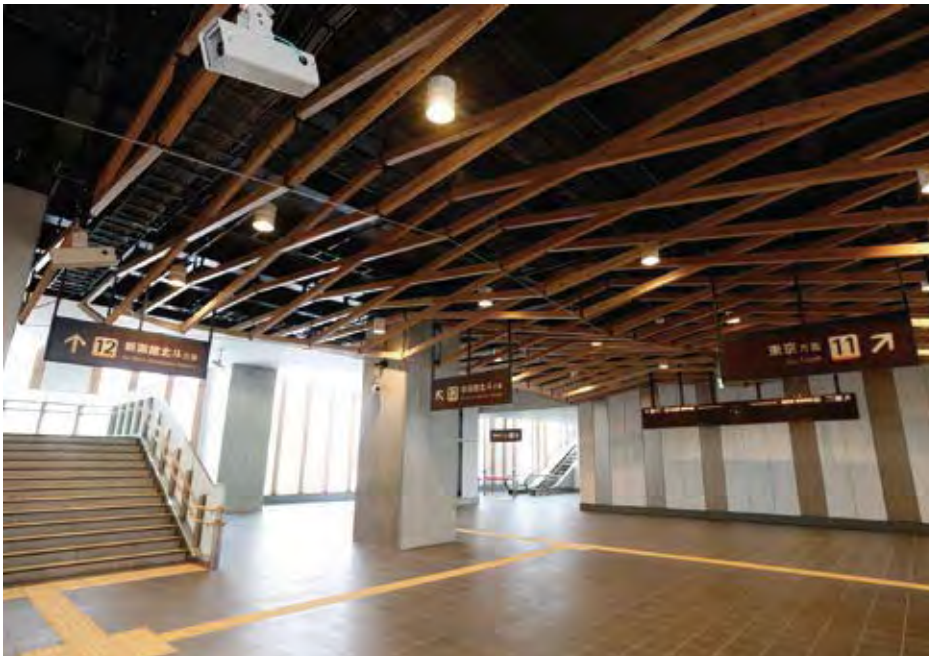
また、木古内駅の駅前には新たに道の駅「みそぎの郷　きこない」が作られました。伝統神事「寒中みそぎ祭り」で知られる木古内町はもちろん道南９町の魅力を発信する場となっています。

駅舎の柱周りや天井に使われている材料は、道南スギ材で不燃性能を持たせるため、不燃塗料を塗布しています。

道の駅「みそぎの郷　きこない」にも内外装・遊具スペース・什器・ベンチに至るまで、全てに道南スギが使われています。

新幹線開業を前に開かれた木古内駅と道の駅「みそぎの郷　きこない」の見学会では、「木の香りに包まれてリラックスできる空間だった」といった感想のほか、「地域のスギを使ったこのような施設は地域の誇り」「一口にスギ材と言っても加工によってずいぶんと印象が変わる」といった感想が寄せられ、地域の宝とも言える道南スギへの関心も高まっているようでした。

在来線と新幹線の駅舎を結ぶ通路にも道南スギが使われ、明るい雰囲気になっています



改札を抜けるとまず目に入る、幾何学模様の天井は道南地区で古くから植栽されてきた道南スギを駅のシンボルとし、波をイメージしてデザインされています

【使用木材と施工状況】

壁 面 柱：道南スギ　フリー板
不燃塗料塗布
天井装飾：道南スギ　集成材
不燃塗料塗布
共用通路：道南スギ　羽目板など全体で 27m^3

新幹線と在来線の駅前にオープンした道の駅。中に入ると道南スギの香りが広がります

【使用木材と施工状況】

天井ルーバー、内装壁、什器など：道南スギ
全体で 35m^3

《建物概要》
道の駅 みそぎの郷 きこない
住　所：〒 049-0422
北海道上磯郡木古内町字本町 338-14
ホームページ：http://kikonai.jp/

レストラン プラティーヴォ

高橋牧場が経営するニセコミルク工房レストラン。ランチでの野菜ビュッフェが楽しめるファームレストラン

羊蹄山との絶妙なロケーション、四季折々の風景とのコラボレーション、自然を取り込み、自然に取り込まれ、自然の恵みである野菜を食する。そんなコンセプトを強く印象付けるレストラン「プラティーヴォ」。

外壁に使われているのは道南スギです。冬の厳しい風雪のなかで徐々に表情を変え、「寂びた風合い」になることを期待されてこの樹種が選ばれました。

法規制について、ニセコ町のこの地区独自の「景観法」での規制があったため、敷地境界線からの距離、屋根の形態、屋根・外壁の色使い等への縛りを克服する必要がありました。

外壁の色については、年月の経た風合いの変化を丁寧に説明し、「真っ黒」ではなく、「こげ茶」になるという説明でクリアしています。

また内装には床にカラマツ無垢材のフローリング、腰壁にシナ羽目板を使用し、室内全体の調和を保っています。

【使用木材と施工状況】

外壁：道南スギ板　17mm 厚　平かさねタイプ（大和張り）206m²
内装：腰壁 シナ羽目板 既製品 裏使い　10mm 厚　150m²
床　：カラマツ無垢フローリング　30mm 厚　120m²

《建物概要》

レストラン プラティーヴォ

・住　所：ニセコ町曽我 888-1
・設計者：中村好文、新貝孝之
・施　工：横関建設工業株式会社
・用途地域：準都市計画区域
・構　　造：鉄骨造 2 階建
・延床面積：325.44m²
・連 絡 先：新貝設計事務所
・E - m a i l：sinkai@gaea.ocn.ne.jp

十勝トテッポ工房

十勝トテッポ工房は、かつて砂糖の原料となる甜菜を運んだ十勝鉄道（愛称とてっぽ）から名付けられたケーキ工房です。敷地は線路跡地を利用した緑豊かな遊歩道に面していたため、建築単体のデザインは控えめなものとし、遊歩道と一体となった公園のように人々に利用してもらえるような配置平面計画としました。散策する人にヒューマンスケールな感覚を与えるため、3.5m の高さに抑えた RC フラットスラブによるシンプルな平屋のボリュームとしています。外装材には、周囲の樹木と呼応するように、粗い目を残した道産カラマツを縦張りとし黒く染色しています。夏の日射を遮り風景を切り取る軒の深いテラスや、外断熱工法の採用により、ケーキ工房としての穏やかな温熱環境を維持することを意図しています。内部の床仕上げには道産ニレを採用し、素朴でざっくりとした風合いを大切に、心地よいスケールの外観と落ち着きある内部空間の両立を図りました。

《建物概要》

十勝トテッポ工房

- 住　所：帯広市西 6 条南 17 丁目
- 設計者：(株) 鈴木理アトリエ一級建築士事務所　鈴木理
- 施　工：大成建設株式会社

雪景色の町屋

山に呼応する軒が重なり合う自然と調和する外観

建物の表情に微妙に変化をもたらす格子パターン

ニセコビレッジ ショッピング＆ ダイニングエリア

2014年冬、羊蹄山を望むパウダースノーの聖地、ニセコビレッジに複合施設「ショッピング＆ダイニングエリア」が新たに誕生しました。コンセプトとなったのは、伝統的な日本の町屋風建築です。ショップやレストランなど７店舗が軒を連ね、モダンと伝統美が織りなす日本文化の落ち着いたライフスタイルが再現されています。特に観光シーズン本番の冬は、周囲が雪で真っ白になり、より一層幻想的な雰囲気で国内外の旅行者にも好評です。

景観へのこだわりはもちろん使用する木材にもこだわりが光ります。外壁の化粧材として使用されているのは、道産トドマツです。町屋の雰囲気をより良く出すために塗装を施していますが、これも加工が容易で腐りにくく道内で入手しやすいトドマツの特性を考えて樹種の選択をしました。強度のある道産カラマツは、雁木に集成材で使用しており、落雪からの安全もしっかりと確保しています。

輸送におけるCO_2排出量の削減、森林整備の促進といった“地材地消”や安定的なコストを考慮して意識的に道産材を“選択”しました。使用に当たっては、乾燥に時間を要するという課題もありましたが、設計段階の早期でサイズ・数量を決定するなどして解決しています。国内外の旅行者が訪れるこの施設で、道産材の温もり、表情の豊かさに触れてもらいたい。そうした思いのもと、道産材にこだわり、より一層北海道らしいおもてなしを実現しています。

【使用木材と施工状況】
トドマツ：80m³
カラマツ集成材：15m³

《建物概要》
ニセコビレッジ（株）
・住　　所：ニセコ町東山温泉
・開 業 日：2014年12月5日
・HP：http://www.niseko-village.com/ja/
・設計/施工：清水建設（株）北海道支店
・構造階数：RC造一部2階建て
・延床面積：1,829.64㎡

I GATE イケウチニセコ

外装はエリア内にある７つの店舗で全て統一された様式ですが、内装については店舗ごとに異なっています。

アウトドアウェア・グッズを扱っているI GATE イケウチ ニセコでは、道産クルミの３層パネルを商品陳列棚などの什器に使用しています。外装とは印象をガラッと変え、白地の壁にクルミの木目で明るさを演出しながらも、リゾート地らしく重厚感・高級感を感じさせる内装になっています。

【使用木材と施工状況】

構造材：屋根大梁＝カラマツ構造用集成材
小　　梁＝トドマツ構造用集成材
遊　具：カラマツ製材、道産広葉樹材
建　具：トドマツ集成材

カラマツ集成材の山形トラスとトドマツ集成材の木製カーテンウォールで実現した、明るく開放的な室内空間

北海道立オホーツク流氷公園あおぞら交流館

全身を埋めながら木の良さを楽しめる道内有数の木の玉プール

広々とした木質空間には多種多様な木製遊具

木製遊具各種

あおぞら交流館はオホーツク流氷公園の中核施設で、屋内活動室・遊戯室・多目的室・管理事務室で構成されています。地域の歴史的建築物をモチーフに採用されたシンプルな切妻型の木造屋根と、妻壁全面をガラスで覆った木製カーテンウォールが大きな特徴であり、それらによって明るく開放的な室内空間となっています。

構造的には 2 棟の RC 造平屋の間に木造大屋根を架ける構造となっています。大屋根を支える山形トラスは屋根梁としての道産カラマツ集成材とテンション材としての鋼棒を組み合わせた張弦梁構造が採用されており、軽快で見晴らしの良い空間となっています。また、2 連のトラス間に鋼棒を挟み込んで一体化することで、屋根梁の幅サイズを抑えて、集成材製造時の幅はぎ工程を省略することができ、経済的にも優れた架構となっています。妻壁全面に広がる木製カーテンウォールにおいても、道産トドマツ集成材とスチールバーの複合により、木部の断面サイズを抑えて、スリムで開放的なスクリーンを実現しています。

この建物は、木材・鋼材・RC のそれぞれの良さを活かしたハイブリッド構造であり、異種材料が適材適所で活用されています。また、構造材から造作材や遊具に至るまで、オホーツク地域の豊富なカラマツやトドマツ、広葉樹がふんだんに使われており、森林の樹種構成や材質特性の面でも適材適所で活用されています。

休日になると子供たちの歓声が響き合い、遊びながら木にたくさん触れることで自然と木の良さを伝えることが出来る、「木育」を体感できる施設です。

2 棟の離れた RC 造平屋の間に木造大屋根が架けられている

《建物概要》

北海道立オホーツク流氷公園　あおぞら交流館

- 住　所：紋別市元紋別 101 番地
- 連絡先：0158-27-4560
- 構　造：RC 造・一部木造
- 面　積：2,928m²
- 設　計：株式会社 環境設計

道の駅 あかいがわ

天井が高く、開放的な店内

梁の間接照明は一本桜がモチーフになっています

札幌より1時間半ほどの場所に位置する赤井川村では、国道の全面開通や道道余市赤井川線の冷水トンネル完成など交通事情が近年大きな変化を迎えています。平成30年には隣町の余市町までの北海道横断自動車道延伸も予定されています。

この主要道路の利用者が安心快適に通行するため、24時間利用できるトイレを備えた休憩場として、また村の地場産業の販売促進や観光のPRの場として平成27年3月に本施設はオープンし、翌月には、『道の駅』にも登録されました。食事処を始めベーカリーやジェラートも好評で、ドライバーの憩いの場となっています。

本体施設の外観は山村地域らしく山小屋風ロッジで、その横には地元農産物を販売するための直売所が並んでいます。また建築材については、地元後志のカラマツ集成材を中心に地域材をふんだんに使用しています。内装については、敷地内に自生している一本桜がモチーフとして施設内にある梁の間接照明やガラスなどにちりばめられています。また施設のイメージにも合う暖炉を設置して木材施設の良さを一層引き出しています。

□利用者の声：

「田舎の雰囲気に合った落ち着いた建物、天井が高く狭さも感じない。」「夏でも暑さを感じない。」といった感想が多く聞かれます。

《建物概要》

道の駅 あかいがわ

- 住　所：赤井川村字都190番地16
- 設　計：(株) ドーコン
- 施　工：(株) 石山組
- 連絡先：赤井川村　産業課産業係

【使用木材と施工状況】

延べ面積： 612m²
建築面積： 714m²
構　　造： 木造平屋建　在来軸組工法
木材使用量： 243m³（うち地域材216.70m³）
構造材　カラマツ
内装材　カラマツ・トドマツ
外装材　カラマツ

本体施設に隣接した直売所

ひがし大雪自然館

ひがし大雪自然館は、大雪山国立公園の東大雪地域を中心に自然や歴史、リアルタイムな地域の情報を発信するサテライトフィールドです。また、十勝三股における、観光教育を実施する活動拠点でもあります。この自然館は、環境省と上士幌町が合同で整備したもので、環境省が「糠平源泉郷ビジターセンター」（博物展示施設）を、上士幌町が「ひがし大雪博物資料館」（博物展示収蔵施設）を担当しました。

国立公園内の建築は、通常、木造切妻が原則です。ひがし大雪自然館は、環境省と上士幌町との合築としてT字型に繋ぐ形態としていますが、切妻の原則は守っています。二つの施設にはスパン・軒高等、全て同一寸法同一材で計画し、一体の建築として仕上材を含む全てを統一しています。また、構造には道産カラマツの集成材を使用していて、スパンは両施設とも13m。桁行も2.0mと同一寸法としています。13mのスパンは、無理せず中間に軸力だけを負担する柱を立てて上部から放射状に梁を支持するフィンガーを出しています。フィンガーによって、柱、梁とも小断面となり、合理的で見た目にも軽快な構造にしました。

□設計者の声：

山の中の建築は、切妻、大屋根と無愛想な表情をしていますが、内部は明るく包み込む優しさで、みんなが来るのを待っています。特に賑やかな子どもは大歓迎です。私達がテーマとしたことは、内部空間のつくり方で、展示スペースをいかに親しみやすい空間にするかということです。木と鉄を組み合わせた合理的な構造の考え方と、内部空間の整え方を常に意識しながら全体を構成しました。

［写真上］ひがし大雪の自然、歴史展示空間
［写真下］昆虫の展示ブースが点在するひがし大雪博物資料館

【使用木材と施工状況】

構造材：カラマツ 135.0m³
外　装：カラマツ 20.5m³
フローリング：カバ

《建物概要》
ひがし大雪自然館
・住　所：上士幌町字ぬかびら源泉郷 48-2
・構　造：木造平屋建て
・延べ面積：970.10m²
・設　計：株式会社アトリエアク（札幌市）
・施　工：北海道地方環境事務所工事区分
　　伊藤組土建株式会社（札幌市）
　　上士幌町工事区分
　　宮坂建設工業株式会社（帯広市）

「くしろ木づなプロジェクト」

釧路市は約 10 万 ha の森林から生み出される豊富な森林資源と、人口約 18 万人という北海道東部の拠点としての都市機能を併せ持つ「森林都市」となっています。

このことから、釧路市では平成 22 年に市内の林業・木材産業関係者、工務店、設計士、エンドユーザー、研究者、行政など木材供給側から需要側までの幅広い関係者による「釧路森林資源活用円卓会議」（以下、「円卓会議」という）を立ち上げ、関係者の合意形成による林業・木材産業の振興を進めています。

円卓会議での議論をもとに、適切な森林管理と木材の利用拡大に向けた取組を「くしろ木づなプロジェクト」として、森林資源の現状把握、高付加価値化に向けた加工技術の検討や新商品開発、地域材利活用を進めるための人材育成などを実施しています。

ここでは、その成果の一つとして公共施設や民間施設への地域材普及についてご紹介します。

■釧根電気工事業協同組合事務所

- **概　　要：** カラマツ集成材などを使った事務所
- **住　　所：** 釧路市新釧路町 14-6
- **建 築 面 積：** 287m^2
- **延 床 面 積：** 477.5m^2
- **道産材利用量：** 73.38m^3
  （カラマツ製材 5.14m^2、トドマツ KDS4S27.98m^2、カラマツ集成材 40.26m^2）
- **施　　工：** 厚浜木材加工協同組合（浜中町）
- **設　　計：** （株）長谷川建築設計事務所（釧路市）

■釧路空港ターミナルビル

- **概　　要：** カラマツを使った家具や展示用什器を利用
  カラマツ材製品で空港利用者をおもてなし
- **住　　所：** 釧路市鶴丘 2
- **道産材利用：** インフォメーションカウンター
  観光 PR コーナー「タンチョウプラザ」
  展望デッキのベンチ等
- **備 品 類：** 丸善木材（株）
  釧路町桂 4-15　　Tel　0154-37-1561

■音別町行政センター

- **概　　要：** 新庁舎の建設に合わせて、地元産のカラマツを使った内装材や家具を利用
- **住　　所：** 釧路市音別町中園 1-134
- **建 築 面 積：** 547.42m^2
- **道産材利用量：** 280.43m^2：3.37m^3　カラマツ製材（釧路市音別産）
  ロビーテーブル 2 台・ロビーチェア 6 脚・待合用ベンチ 2 脚・申請書記載台 2 台・テレビ台 1台・パーティション 2 枚・パンフレットスタンド 2 台
- **備 品 類：** 得地ファニチャ工業（株）
  釧路町中央 3-20-1　　Tel　0154-40-2261
- **設　　計：** 斉藤・釧路綜合特定共同企業体
- **施　　工：** 瀬戸・富樫・市橋特定共同企業体

■大楽毛よしの幼稚園

・概　　要：カラマツ集成材や、カラマツフローリングを使用した幼稚園。園舎新築に際して園児とその保護者を対象とした木育教室を実施
・住　　所：釧路市大楽毛西 2-25-3
・建 築 面 積：637.34m^2
・延 床 面 積：631.61m^2
・道産材利用量：124.29m^3
・カラマツフローリング：札鶴ベニヤ（株）が、釧路工業技術センター／釧路森林資源活用円卓会議／釧路市とともに開発に取り組んだ、北海道産の木材使用率を 70 ～ 80%に高め、耐久性に優れた針葉樹の複合フローリングの商品「耐傷性フローリング『鶴ハード』（針葉樹タイプ）」。平成 27 年度「北海道新技術・新製品開発賞（ものづくり部門）」の優秀賞を受賞。
取扱 / 札鶴ベニヤ（株）恋問工場 白糠町コイトイ
Tel　01547-5-2136（担当：金子）
・施　　工：厚浜木材加工協同組合（浜中町）
・設　　計：三浦建築設計事務所（釧路市）

■釧路短期大学

・概　　要：カラマツを使った家具や、道内産の木材を使った遊具。
釧路森林資源活用円卓会議・釧路市と釧路短期大学の子育て支援ゼミ（塚本研究室）との連携事業として木製遊具の開発や木育教室を実施
・住　　所：釧路市緑ケ岡 1-10-42
・道産材利用：カラマツ、トドマツなどを使用した家具や遊具
・備　品　類：得地ファニチャ工業（株）
釧路町中央 3-20-1　　Tel　0154-40-2261

■釧路市役所防災庁舎

・概　　要：新庁舎の建設に合わせて、地元産のカラマツを使った内装材や家具を利用
・住　　所：釧路市黒金町 8-2
・道産材利用量：内装材は釧路市音別産カラマツ材
カラマツを使用した備品類
・備　品　類：（株）イトーキ北海道帯広駐在所
帯広市西 6 条南 10-51-2（担当：徳本）
Tel　0155-28-5721

■国設阿寒湖畔スキー場ウォッチングハウス

・概　　要：内外装に地元産のカラマツ材を利用。冬期間は各種スキー大会の運営拠点や強化合宿等の研修拠点、夏季間はエコツーリズムによる自然散策イベント等の拠点として使用
・住　　所：釧路市阿寒町シュリコマベツ 4-4
・延 床 面 積：113.45 m^2
・道産材利用量：27.4m^3（釧路産カラマツ製材・集成材）
・施　　工：迫田建設株式会社（釧路市）
・設　　計：釧路市都市整備部建築課

「上川トドマツプロジェクト」

写真：（株）トーティック

「夢来（むく）フローリング」
道産トドマツ大径材を使った
無垢フローリング

「トドマツ・テーブル」
天板には白くて柔らかい質感のトドマツ材を使用し、傷がつきやすい縁の部分をトドマツ圧密材で補強したテーブル

「トドマツ・チェア A」
背もたれと座面にトドマツ無垢材を使用し、トドマツらしい柔らかい質感の座り心地と軽さが魅力の椅子

写真：（株）ハギヤ

「トドマツ・チェア B」
座面と背もたれには柔らかいトドマツ無垢材を使用し、フレームには頑丈な広葉樹材を使用した椅子

北海道で一番蓄積量の多いトドマツを有効に活用するため、上川地域水平連携協議会が設立されました。上川地域の木材関連企業が構成員となり、北海道立総合研究機構森林研究本部林産試験場や北海道林産技術普及協会などと連携しながら、様々な技術開発や新製品の開発が行われています。これまでの連携・研究の成果として、トドマツの大径材を高い技術で加工し、確かな品質を実現する商品開発が続けられています。まず最初に、家を建ててからも寸法変化の少ない住宅構造材に仕上げたトドマツ無垢構造材「夢来（むく）」が開発されました。続いて、白さ、やわらかさなどの長所を生かした床材「夢来（むく）フローリング」が商品化されました。

そして、これまで家具材としては基本的に使われてこなかったトドマツを用いた家具づくりがスタートしました。やわらかく白い木肌とまっすぐな木目、軽さや香りなど、トドマツならではの個性を生かした家具が商品化されました。

今後、北海道及び上川地域ではトドマツの利用可能な資源量が増大します。今までの利用方法と合わせて新たな利用の可能性を探りながら、トドマツの良さを提案し続けます。

《連絡先》
概　要：上川地域水平連携協議会
住　所：旭川市西神楽 1 線 10 号
　　北海道林産技術普及協会内
電　話：0166-75-3553

北海道産カラマツ材使用　「CLT 仮設店舗」

高強度な CLT と頑丈な接合工法により開放的でスリムなフレームでも優れた耐震性を実現。
木の良さをアピールできるデザイン性と実用性に優れ、各種イベントで活躍中です

CLT どうしの留め付けには特殊な接合工法を採用、金物が露出せずにすっきりとした内観となっています

【使用木材と施工状況】

使 用 箇 所：壁・床・天井
使 用 樹 種：カラマツ
使用した CLT：3.239m^3（一棟あたり）
CLT サ イ ズ：120mm 厚（3 層 4 プライ）
延べ床面積：4.902m^2（一棟あたり）
竣　工　年：2015 年

【掲載先について】

住　所：札幌市中央区北 3 条西 3 丁目 1 札幌駅前藤井ビル 8 階
H　P：www.sapporoekimae-management.jp
連絡先：札幌駅前通まちづくり株式会社
設　計：アトリエオンド一級建築士事務所
　　桜設計集団（監修　株式会社ノーザンクロス）
施　工：物林株式会社、株式会社カムズ・コンストラクション、
　　株式会社エーステック

札幌駅前通まちづくり株式会社では、全国で初めて北海道産カラマツ材を使用し、CLT 工法により製作した屋外イベント向け「CLT 仮設店舗」を開発しました。CLT とはクロス・ラミネイテッド・ティンバー（直交集成板）の略で、ひき板を並べた層を板の方向が層ごとに直交するように重ねて接着した大判パネルです。

この仮設店舗は、北海道産木材の需要拡大や、市民にはまだ馴染みの薄い CLT 工法の周知を図る目的のほか、公共空間と調和する優れたデザインと、イベントでの実用性を兼ね備えた建築物になるよう開発を進めました。開口部は大きく取られていて、お客様とのコミュニケーションも取りやすくなっています。

北海道内をはじめ各地で行われるイベントにも幅広く貸し出しを行い、公共空間で行われるイベントの「デザインの質の向上」に一役買っています。

頑丈な CLT フレームが鉄骨フレームに取り付けられており、移動・設置作業もスムーズに行うことができます

[**左上写真**] 足触りが柔らかなウッドパネルの遊歩道。4 棟の東屋は、友達とのおしゃべりや近隣住民の散歩道、文化祭のステージなど多世代が集う様々な活動の場となっています
[**右上写真**] 玄関前には、旧校舎から受け継いだ、桜と金子鴎亭氏の書のレリーフを埋め込んだ校名板があります。桜が活きるよう、背景になる外壁塗装色を決定しました

松前中学校

北西からの強い風を防ぐため、高さのある体育館と武道場を西に配置。渡り廊下と防火壁で各々を 1,000m² 以下に区画することで、5,118m² の木造建築が可能となりました

松前中学校は、松前町にある、1学年2クラス全校生徒138人の通う町で唯一の中学校です。平屋の木造建築を4棟の分棟とし、各棟を渡り廊下でつないでいます。延床面積5,118m^{2}の大型木造建築です。

□設計者の声：

設計に当たっては、地場材である松前スギをふんだんに使用した校舎であること、体育館や音楽室、学校給食センターは地域開放も視野に入れるなど地域施設としての学校であること、木特有の柔らかい肌触りを活かした生活の場としての学校であること、松前町の気候風土に適応する校舎であることの4つが重点的に求められました。

体育館、武道場、音楽室については、プレカット加工可能な寸法で一般流通している中断面集成材を組み合わせて梁にすることで大空間ながら標準的な価格におさえています。また、在来工法を採用して地場の大工、工務店の木工事施工による建設を可能にしました。

体育館は、建物の奥行きが深いため、木本来の色（茶色）のままでは暗くなりがちです。そこで、浸透性塗料により松前スギの木目を活かしながら薄く白色に塗装し、光が柔らかく反射する、自然採光でも明るい部屋にしました。普通教室は、木目を活かしながら、薄いベージュ色の浸透性塗料を塗っています。これにより、激しいフシや著しく色の違いのある板材を有効に活用でき、黒板が見やすくなると同時に、板壁特有の柔らかく落ち着いた雰囲気を活かすことができました。

外壁にも木を使用していますが、これは強い海風を凌ぐために古くから松前の民家や漁師小屋で用いられてきた手法です。厳しい気候状況に耐えるよう外壁は比較的厚めの21mmの松前スギの板材を使用しています。外壁塗料として耐候性に優れた木材防護保持剤で着色しました。

木造の現場は、木を加工するときの音が心地よく、RC造の現場より静かであると感じました。また、建設する過程が地域の方々にとって身近でわかりやすいというのも地場材を用いた木造建築の良さであると今回発見しました。

武道場と音楽室、奥に体育館。重なり合う屋根形は背後の山に連なります

ランチルームでは大きな机に皆が集います。いつでも多くの生徒が集まり、なごやかな時間が流れています

松前スギ90角の格子耐力壁。ランチルームと廊下をやわらかく仕切り、より多くの自然光を取り入れます

【施工者】

■1期工事（A棟）

建築：小川・今井・佐々木 特定建設工事共同企業体
電気：タマツ・森・阿部経常建設共同企業体
設備：池田・大明経常建設共同企業体

■1期工事（B棟）

建築：西沢・森川・清水 特定建設工事共同企業体
電気：樺電・古海・真友経常建設共同企業体
設備：サトウ・原田・川合経常建設共同企業体

■2期工事

建築：小川・今井・西沢 特定建設工事共同企業体
電気：タマツ・森・阿部 経常建設共同企業体
設備：サトウ・原田・川合経常建設共同企業体

【使用木材と施工状況】

- **松前スギ：**構造材（柱、梁、造作材）866m^3
- **松前スギ：**外壁スギ板3,193m^2
- **松前スギ：**内壁スギ板5,623m^2
- **松前スギ：**内外装材3513.7m^2
  （軒天、天井、デッキ材、野地板）

《建物概要》

松前中学校

・住　　所：松前町博多265
・1期工事：平成26年8月竣工
・2期工事：平成27年8月竣工
・延床面積：5,118m^2
・設　　計：株式会社　象設計集団
　　http://www.zoz.co.jp

在来工法でつくられた体育館。柱、梁、板壁、ルーバー等に松前スギを使用しています。衝突に強く作られた壁の板戸を開き、開放性の高い体育館とすることもできます

トップライトと 2 面採光を行うことで、自然採光のみで明るい普通教室。それぞれに水場、アルコーブ、だんだんコーナーを隣接して設け、連動して使用しやすいようにしました

カラマツ集成材によるダイナミックな架構を現しにした多目的ホール。空間のもつ楽しさ、木の力強さと温かさが子供達の創造力を刺激します

陸別小学校

日本一寒いまち陸別町の小学校の校舎です。「林業のまち」陸別のシンボルとなる小学校として、地場産材を構造体と内装材に多用しました。厳冬期には -30℃まで気温が下がる厳しい自然条件に配慮して、校舎北面は RC 造外断熱として熱負荷を抑制し、南面は開放的なカラマツ集成材の木架構で暖かな日差しを取込む計画としました。また RC 部分で地震力を、木架構は垂直荷重のみ負担するハイブリッド構造で、熱負荷のコントロールと構造形式を合致させた建築形態としました。

既存校舎を使いながらの建替えのため校舎を分棟配置としており、各棟間に RC 造を挟んで棟を分割することで準耐火構造とならない計画としています。

様々な活動が行われる多目的ホールの屋根は、子供たちの活動密度に合わせて空間に大小の膨らみを持たせた３次曲面形状としました。カラマツ集成材の格子梁により、ドーム構造が連続したような架構として構造的合理性を持たせ、内部は木架構をそのまま見せたダイナミックな空間としました。普通教室棟は、カラマツの集成材梁をリニアに連続させてリズミカルな秩序を感じさせると共に、普通教室～ワークスペースの一体感を強調しました。

内装仕上や建具、家具等、子供たちの手の触れる部分には、地場産トドマツをはじめシナ・カバ等の木材を多用して温もりのある空間とすると共に、木の加工性の高さを活かした曲線細工を建具小窓や家具に施し、小学校らしい楽しいデザインを随所に用いました。

町と地場産業を象徴するような温かでダイナミックな木の空間の下で営まれる学校生活や地域交流活動を通して、地元の人々が誇りと愛着を感じる学校となることを目指しました。

【使用木材と施工状況】

木材使用箇所：土台、柱、梁、軒天、サッシ、床、建具、窓枠、家具、サイン
使 用 木 材：カラマツ、トドマツ、カバ、シナ
構　　造：395m^3（構造材）
延べ床面積：木造、一部鉄筋コンクリート造、平屋　3,861.82m^2

《建物概要》
陸別小学校
・住　所：陸別町字陸別原野基線 331-1
・施　工：萩原・朝倉・佐藤経常建設共同企業体
・設　計：株式会社 北海道日建設計

教室と一体利用できるワークスペース

遊戯室にある高さ１mのカラマツ大梁は、この園の象徴で園児たちをいつも見守っています

七飯ほんちょう保育園

《建物概要》
七飯ほんちょう保育園
・住　所：七飯町本町７丁目 657-2
・連絡先：0138-65-2301（園長：加藤）

七飯ほんちょう保育園は元々、七飯町の「本町保育所」として 1964 年度に開設しました。2010 年度から民営化され、現在は社会福祉法人「聖樹の杜」が運営しています。保育理念に「みんなが笑顔になれる保育」を掲げ、自然との深い関わりをもつ遊び方やおさんぽ、はだし保育、リズム運動などの「あそび」、身の回りのことに自分自身の力で取り組み、生活に必要な道具にも触れる「せいかつ」、伝統的な行事や風習、守るべきお約束を大切にする「こころ」。この３本の柱をバランス良く取り入れた、「七飯ほんちょう保育園ならではの取り組み」をすすめ、子ども達、職員と保護者様が共に成長して行くことが出来る保育を目指しています。子ども達に、出来る限り沢山の「楽しくて・美味しくて・嬉しい」を体験させるため、2011 年1月に地域材をふんだんに活用した新園舎を作りました。

構造材には道産カラマツ集成材を、内装材や外装材には道南スギを活用しています。園児たちは優しい木の香りに包まれ、心身ともに、すくすくとたくましく成長していきます。

■利用者の声

保護者

園内の太い柱や、大きな梁が園の保育目標や、方針等のイメージとマッチしていて、園内の何処にいても、木を感じる事が出来ます。子ども達だけでなく保護者にとっても心地よさを感じる事が出来ます。建物だけで無く、園の看板、クラス名の札等も木が使われていることで、どこか懐かしいような、優しいような雰囲気があり、我が子も喜んで保育園に通っています。

職員

日々の保育の中では、当たり前になってしまっている太くて大きな梁ですが、新築の工事現場見学で見たときのインパクトはとても強いものがありました。いったいこの大きな木はこの園舎のどこの部分に使用するのだろうかと、素人ながら考えていました。日々の保育の中では子ども達も、職員にとっても日々の一部となっていますが、柱と梁の目で見える安心感は、いつも感謝しています。

【使用木材と施工状況】

構　造　材：道産カラマツ集成材　84m³
内　装　材：道南スギ　羽目板、モザイク
外部ルーバー材：道南スギ　ツーバイフォー

道南スギのツーバイ材を円形に配置したユニークなルーバー内部は、子ども達の手洗い場になっています

道南スギ 10㎝角、厚み 1㎝の木製タイル（モザイク）は表面にスリットが入っており、市松模様に配置することでユニークな表情が生まれます

《建物概要》
札幌学院大学
・住　所：江別市文京台 11 番地
・設　計：パワープレイス株式会社
・施　工：株式会社ウチダシステムズ

札幌学院大学 Collaboration Center

札幌学院大学は教育の質的転換のため、アクティブラーニングに取り組んでいます。その一環として正課外の主体的・能動的な学びの支援と、ボランティアや地域の課題解決に取り組むプロジェクトの活動支援の場となる次世代型教育環境、「Collaboration Center（コラボレーションセンター）」を開設しました。エントランス、PC 自習室、プロジェクトラウンジ、多目的セミナールーム、カフェラウンジの4 つの空間から構成されています。

地域への貢献、活性化に寄与するためには、地域愛を育むことが必要と考え、学生が手を触れて木材の良さを感じることができるエントランスのベンチ、テーブルを道産材で作成しています。

オープン以来何度か訪れていますが、いつも学生が活き活きと集う様子が見られます。これは担当の教員や学生の運営による企画や情報発信といった努力によるところが大きいのですが、空間もその努力に応えることができたのではないかと思います。

ウエーブベンチ

道産カラマツ集成材を用いたオリジナル家具。多くの学生が通過する廊下に目印を置きたいという発想と、隣に座った時に自然に視線が向き合うよう、緩やかに波型を描いた形状と 50mm の厚み、針葉樹という材質が特徴ある家具となりました。既存の床の色が明るいため赤みのあるカラマツを選定。表面硬度を高め、耐久性・メンテナンス性を向上するためウレタン塗装ですが、塗膜をできるだけ薄くかつ艶消しとしています。経時的なキズやささくれなどのリスクはありますが、木本来の手触りを少しでも残すため発注者と受注者が十分に相談して決めました。脚部は床の機械清掃も考慮しスチールですが、サテン塗装を施し、カラマツの木目の強さに負けないテクスチャーを持たせています。

丸テーブルおよびカウンターテーブル

丸テーブルは英会話レッスンやミニ発表会など多様な使い方を想定、天板裏には鞄を吊るせるフックも付いています。共に天板は道産タモ集成材を使用。

【使用木材と施工状況】

ウエーブベンチ：カラマツ集成材（艶消クリアウレタン仕上座面）
丸テーブル、丸ハイテーブル：タモ集成材（染色クリアウレタン仕上天板）
カウンターテーブル：タモ集成材（染色クリアウレタン仕上天板）

ときわの家は設計者の自宅とアトリエ、妻の仕事場、父親の週末住宅、彫刻家五十嵐威暢氏の試作小屋（もりのび）が一つに集まった建築です。敷地は西側に札幌芸術の森と真駒内川に降りていける緑豊かな環境です。

ミズナラやイタヤカエデ、サクラ、ホオノキなど、既存樹木に寄り添うように、勾配屋根の小さな木箱を分棟配置することで「大きな木の下に並ぶ小さなおうち」のような風景が出来ないかと考えました。

外装材には 60 ミリの幅に細く挽き割った道産カラマツを粗挽き素地で縦張りし、背景の森に溶け込むような外観としました。室内は、構造材に道産カラマツ集成材無塗装をあらわし、床は道産ナラフローリング、壁に粗挽きの道産カラマツ素地を使用しています。森や川に囲まれた生活空間、ニセアカシアの大木が作り出す木陰の下で朝食をとり、ミズナラがつくる夕日の陰を眺めてほっと一息つく。森と繋がった空気感を醸成することを意図しました。

ときわの家

《建物概要》
ときわの家
・住　所：札幌市
・設計者：
（株）鈴木理アトリエ一級建築士事務所 鈴木理
・施　工：株式会社 アウルログホームズ

［上段写真］森に面したアトリエ外観。左が五十嵐氏の空間で右がアトリエになっており、札幌軟石のテラスに面して共有の打合せスペースがあります

［中段写真］住宅のダイニング。樹々を仰ぎ見る大きな開口とし、森の中で生活するような空気感が醸成されることを試みました

［下段写真］アトリエ棟の打合せスペース。カラマツ素地の壁を内外に連続させています。暖房は薪ストーブのみ使用しています

石山神社

札幌軟石の採掘とともに石山地区の開拓が進み、落盤事故を防ぐ願いから明治 18 年に石碑が建てられたのが石山神社のはじまりです。その 130 周年記念事業として社殿が改築されました。

特に今回は異例とも言える、伊勢神宮の御用材をいただき使用することができました。材の使い回しの検討や職人の手作業による加工・補修などを行い、社殿の見える部分に材をふんだんに使用することで、ヒノキの香漂う重厚な仕上げとなっています。正面の御扉は、伊勢神宮月読荒御魂宮正殿の扉をそのまま利用しています。

一般的に、神社建立には多額の費用と宮大工による特殊な技能・技術が必要と言われていますが、建築部材加工の一部を工場での機械加工とすることで、高品質・低価格・短工期を実現しました。

御用材のヒノキを内装に使用した神殿

設計者・施工者の声：

今回の工事は、会社の歴史の中でも初めての本格的な神社建築でした。

伝統工法の担い手が減少していく中で、未来の子供達に石山神社の建築を通して、日本の伝統建築の良さを体験して頂ければ幸いです。

【使用木材と施工状況】

伊勢神宮の御用材（ヒノキ）：64 石〔18.03m³〕
（腐食・破損部分を除く 11.25m³ を使用）
カラマツ集成材：23.85m³
カラマツ、トドマツ：21.58m³

《建物概要》
石山神社
・住　　所：札幌市南区石山 254
・設計 / 施工：株式会社 木の城たいせつ
栗山町旭台 1-58

《建物概要》
トドマツオフィス
・住　所：下川町一の橋 607
・設計者：内海 彩 /KUS+team Timberize
・施　工：盛永・金子・三賀経常建設共同企業体

下川町の トドマツオフィス

「下川町のトドマツオフィス」は一の橋バイオビレッジに隣接して建っています。外装のカラマツ燻煙材はバイオビレッジでも用いられ地域の景観をつくり出しています

下川町 / 王子ホールディングス / チーム・ティンバライズで取り組んだトドマツ建築プロジェクトの第1作目の「トドマツオフィス」は、薬用植物の研究施設として使われています。土台を除く全ての構造材にトドマツ製材を使用し、7.8m スパン、天井高さ 3.5m の学校教室サイズの空間が３つ並ぶ平面に、住宅用製材で組み立てる木造のトラス・ラティス梁を掛け渡しました。床は、独自の乾燥を施したトドマツ、内部の造作壁や家具にはミズナラやニレ、外壁にはカラマツ燻煙処理材を用いています。

トラス・ラティス梁は、製材で組んだトラスの上に薄い板材を格子状に張ったもので、厚さ９ミリのラティス材は、構造要素とは感じさせない軽やかさを纏いつつ、トラスに劣らない粘り強さを発揮することを実験で確認しました。弱い材をたくさん使い全体で強度を持たせるという手法は、材料強度のバラツキを考慮しなければならない木造建築では昔から行われ、木造の美しさを形作ってきましたが、この建物ではトドマツのラティス材がその役割を担います。穏やかな色あいのトドマツならではの温かみあるオフィスとなったのではないかと思います。

【使用木材と施工状況】

木材使用量：49.0m³（うち地域材 48.0m³）
構　造　材：トドマツ
壁・造作材：トドマツ、ナラ、ニレ
外　　壁：カラマツ燻煙材
延 床 面 積：177.81m²
構　　造：木造平屋建て

北海道産木材を使った特殊合板「Paper-Wood」「ECO シラパネル」

東京都内の子供クリニックの待合室に使用されています。壁の色とペーパーウッドの木口の色を合わせたデザインになっています。（ペーパーウッドシリーズ 4 使用）

新潟県のレストランの間仕切りとして使用されています。自由に曲げることができ、光も通すので木の持つ柔らかさを演出することができます（ECO シラパネル使用）

ペーパーウッドシリーズ I の写真と使用例になります。シリーズ I は北海道産のシナノキと色味の鮮やかな再生紙を使用しています

滝澤ベニヤ株式会社は、2009 年より北海道産木材を利用した新しい合板を開発してきました。それまで合板と言えば木口断面はテープで隠すなどしないと使用できないものがほとんどでした。2010 年から発売を開始した「Paper-Wood」は北海道産のシラカバ間伐材やシナとカラフルな再生紙を交互に貼り合わせることで木口断面に今までにはないデザイン性を持たせた特殊合板です。主に保育園や幼稚園の家具、店舗什器に使用されています。中に入れる紙の色を変えるだけで全く雰囲気の違う空間を作ることができます。

2013 年に発売を開始した「ECO シラパネル」は北海道産シラカバ間伐材の間にポリエチレンを挟み込んだ合板です。切れ込みを入れることで今まで平面でしか使用することができなかった合板が自由に曲がるようになり、曲面でも使用することができるようになりました。主にレストランなどの間仕切りとして使用されています。これらの合板にはホルマリンなどの VOC 対象物質 14 物質を含まない安心安全な接着剤を使用しています。また Paper-wood は 2010 年のグッドデザイン賞、2015 年のウッドデザイン賞を受賞しています。

滝澤ベニヤ株式会社
・住　所：芦別市野花南町 1000 番地
・電　話：0124-27-3111

森町立森小学校
～森から机へ～

「学習机 天板交換プロジェクト」

最近の教科書は、昔に比べサイズが大きいため天板の大きさを一回り大きくしました。その大きな天板に道南スギの鮮やかな色彩が際立ち、教室が以前より明るくなりました

「人工林は適切に切って使わないと荒れてしまいます」というと「切ったらダメだと思っていました」という意見が出るなど、最初から最後まで真剣に聞いていました

キレイに生まれ変わった机と記念撮影
子供たちの声
「お母さんや友達と協力して組み立てました」
「手が疲れて大変だったけど、楽しかったです」
「卒業まで大事に使います」

お母さんと一緒に作業
子供たちの声
「ネジを真っ直ぐ入れるのが難しかったけど、完成して嬉しかった」
「お母さんが、ドライバー使うのが上手でビックリしました（笑）」

森小学校6年生全員の学校机の天板を交換しました。道南スギの色合いにより教室が明るくなりました。ただ天板を交換するだけでなく、2015年7月7日に、保護者参観日がある授業に合わせ、森林の役割・現状は？ 間伐とは？ 道南スギはどんな材？ どうやって加工する？ などを説明する「木育教室」を行った後、子どもたち、その親、先生方、みんなで協力して古い天板を道南スギの新しい天板へ交換しました。天板が大きく使いやすくなっただけでなく、身近にある木製品は森の恵み、木製品から森を想像してもらう良い機会となりました。自分の手で組立てた机なので、大事に使ってくれています。針葉樹材をテーブルに使う際の最大の難点「柔らかさによる傷つき」については塗装で解決するのではなく「木育教室」の際に生徒に特性として説明し、理解してくれたので、掃除の時、机の上に椅子を乗せないとか、本を立てて読まない、テストの際は下敷きを敷くなど、クラスで独自ルールを作り大事に使ってくれています。

※この取組について平成27年11月27日森町より感謝状をいただきました。

【使用木材と施工状況】

森町立森小学校
道南スギフリー板：25 × 450 × 650㎜　70枚

木とふれあい、木に学び
木と生きる

「KEMの木育遊具」

森の鳥達からの贈りもの（木のタマゴ）：
エゾマツ・ナラ・ニレ・イチイ・エンジュ・
セン・ホオ・キハダ・クルミ・サクラ

KEMの木育遊具

イナイイナイ・バア：
ナラ・ミズキ

イヤイヤ：ナラ・ミズキ

KEM製品は木工デザイナー煙山泰子（KEM工房）氏がデザインし、津別木材工芸舎が製作している遊具と生活用品のシリーズです。昭和57年の設立以来、愛着をもって長くご愛用いただける製品づくりをめざして、地元オホーツクの森から伐り出された木材を用い、津別の自社工場で丁寧に加工しています。デザイナーとメーカーが協働で、安全で高品質な木製品を手頃な価格で全国へ発信して30年余りのロングセラーとなりました。

「木育」は、平成16年度に豊かな森林と木材に恵まれた北海道で生まれた言葉です。こどもをはじめとするすべてのひとが「木とふれあい、木に学び、木と生きる」をコンセプトに、木と親しみ森の恵みに感謝して生きる暮らしをすすめています。

木育を伝えるときに、大切にしているのは五感で木を感じてもらうことです。たとえば10種類の道産木材で作った木のタマゴは、それぞれの色や、重さ、木目の違いを知ってもらうために作りました。丸くて優しい木のタマゴから、それを育んだ森へとつながる「手のなかの森」を感じてもらいたいと思っています。

【連絡先】
・KEM工房（札幌市）
TEL 011-855-5510
・（株）津別木材工芸舎（網走郡津別町）
TEL 0152-76-4467

「工房　十勝の木のうつわ」

北海道の木材はどれも木のうつわになります。サラダボウル、お椀、ワンプレート、バターケース、スプーン。どれも普段使い出来る木のうつわです。優しい色相の年輪をお楽しみください

■カフェ「ななかまど」（幕別町札内春日町 297-24）のギャラリーでも常設展示しています

十勝産の広葉樹を中心に一つ一つ手仕事で作られる木のうつわ。扱う広葉樹の種類は 30 種ほどで、並べられたお皿はさながら木材見本のようです。十勝の木のうつわのこだわりは、「木目の美しさを見せること」。それぞれの持つ色合い、年輪を活かしつつも洗剤で洗える“普段使い”ができるうつわです。

工房を営むご主人は、もともと広葉樹を中心とした造材や製材業に従事していましたが、その傍らうつわづくりを始めました。2002 年に廃校の小学校を工房に利用して、本格的に木のうつわの制作に専念することとなりました。

今では、道内外のデパートや百貨店で「木のうつわ展」を展開し、全国を飛び回る日々です。展示会を訪れるお客様の多くは、国産の木に憧れを抱いています。「似た木目の製品は持っているけど、どこの産地か分からない」というお客様に、「北海道産」であることを伝えると納得して喜んでもらえます。十勝の木のうつわが日々の食卓から道産木材の魅力を広く発信していきます。

【連絡先】
工房　十勝の木のうつわ
H　P：http://www.tokatinokinoutuwa.com/
問合せ先：0155-56-3123

（大橋委員長）

北海道にはカラマツ、トドマツ、道南スギ、広葉樹など、多種多様な木材があります。それらを使った心地良い空間、かっこいい建物もぞくぞくと増えています。道産木材に惚れ込んだ情熱あふれるメンバーが集まり、毎回延長戦を含めて熱い議論を重ねながら、事例を集めてきました。さらに、たくさんの方々にご協力いただいて３部作をまとめることができました。ありがとうございました。是非、皆様に本冊子をご活用いただき、素敵な木の建物と空間がさらに増えることを、そして、北海道の森林の営みと恵みが次の世代にも続いていくことを願っています。

■店舗・事務所等における地域材利用検討委員

（鈴木一浩委員）

北海道材での製造・建築・外構の仕事を長年しております。その立場から様々な木造事案やユニークな取り組みアイデアを推薦させていただきました。

委員会では各委員から新鮮な案件が推薦され、いつも「刺激的」でした。

マツ類を中心とした北海道の木材利用の取り組みは様々な面で世界標準といえます。「木材利用の先進地といえる北海道」の姿がこの冊子を通じて見えてくると思います。

（高田委員）

数年前まで東京で生活していた私にとって、北海道は「宝の山」に思えてなりません。今後も北海道の様々な宝物をモチーフにしながら、より多くの方々に「北海道でこそ実現できる素晴らしさ」を伝えられるものづくりをしていきたいと思います。

（浦委員）

これだけ人工物に囲まれて暮らしていると、人間が自然物であることを忘れそうです。でも山や海や花が好きなように私たちは自然を大切にします。「道産木材」三誌を編んでつくづく感じました。木を大切にしましょう。

（高橋委員）

木の持っている質感・風合い、他の素材が持っていない不均一の中の美、日本人の遺伝子に形成されている木の文化への思い入れを改めて揺り動かす総合カタログとなっており、編集に携われた事を光栄に思っています。

（小谷委員）

木を使ったデザインが増えてきていて、とても良いことだなと思います。でも木は変化してしまうもの。新品の美しさだけでなく、更に年を重ねた色の変化やキズ、汚れまでを愛せる、そんなデザインっていいですね。

（細川委員）

「人の居る空間は木で造る」
「建物で人が触るところは木で造る」

なぜなら、私たちは生物であり、動物であり、人間です。だからこそ、人の居る場所は同じ生き物の生命の宿る「植物」で造られるべきなのです。建築建材で唯一　生き物から出来ているのは「木」だけです。それを使うと、優しい場所ができるのです。今こそ、「人の居る場所に木を！」

（鈴木正樹委員）

この委員会で、私が得た一番大きなものは「人とのつながり」です。この「つながり」によって今までにない発想や新しいものが生まれました。この「つながり」を作ってくれた委員会に、また、私を委員に推薦してくれたＫさんに感謝です。この「道産木材」が北海道だけでなく、全国の地域材活用における教本になることを願っています。

（近藤委員）

人にとっての必須要素、水や空気などは山から供給されています。

地域材を使うということは地域の山と経済活動を結び付け、その循環を継続させるということです。

最終的に山が豊かになり、我々の生活も本当の意味で豊かになることを願います。

道 産 木 材 Vol.3

宿泊・観光・教育文化（特徴的な使い方）編

北海道の木を活かした**建物と空間**

■店舗・事務所等における地域材利用検討委員会名簿

大橋 義徳　（地独）北海道立総合研究機構・林産試験場　技術部主査
浦　 一也　浦一也デザイン研究室　主宰
鈴木 正樹　（株）ハルキ　企画開発室長
小谷　 江　パワープレイス（株）　札幌デザイン室長
近藤 健彦　物林（株）建設本部非住宅事業部長
高橋 賢孝　（株）イワクラ　管理部技術開発室長
鈴木 一浩　丸善木材（株）　代表取締役副社長
高田　 傑　高田傑建築都市研究室　主宰
細川 悟志　ミサワホーム北海道（株）デザイン室 MooS

〈事業主体〉
奈良　 賢　北海道林業・木材産業対策協議会

〈北海道庁（オブザーバー）〉
飯田 宇之麿　　北海道水産林務部林務局林業木材課需要推進 G 主幹
※北海道庁担当者　宮田主査、冨成主査、筒浦主査、仲澤主任、足立主事

発行：北海道林業・木材産業対策協議会
監修：店舗・事務所等における地域材利用検討委員会

本パンフレットは環境に配慮した水なし印刷を採用しています。